



1 理的配慮の確認をどのように実施したかを記載  
2 すること。後者の場合は、文書によるインフォ  
3 ームド・コンセントの実施が必須であり、これ  
4 を実施した旨を記載すること。なお、いわゆる  
5 ブラインドテストの場合（結果にバイアスが加  
6 かることを避けるために実験目的の詳細を告げ  
7 ずに実験を行った場合）は、実験後に改めて目  
8 的を説明し承諾を得ること。

9 詳しくは、「人間工学研究のための倫理指針」  
10 を参照のこと。

11 [https://www.ergonomics.jp/product/  
12 report.html](https://www.ergonomics.jp/product/report.html)

## 15 3. 結果

### 16 3-1. 図表の作り方

17 図表番号は、それぞれ Fig. 1, Fig. 2, ... Tab. 1, Tab.  
18 2, ...とし、和文、英文の説明をつける。図題・表題  
19 に用いる英語は冒頭のみ大文字、以降は原則として  
20 小文字を使用する。図表の寸法は、片段横寸法（段  
21 組1段分）または段抜き横寸法（段組2段分）のい  
22 ずれかで作成すること。

23 図表で用いる数字の有効桁数は適切に記載するこ  
24 と。また、モノクロ印刷においても識別できるよう  
25 に、写真のコントラストや図の凡例は適切に作成す  
26 ること。なお、カラー印刷を希望する場合には、別  
27 途費用を請求する。

### 29 3-2. 論文で用いる単位系

30 用字・用語については、現代かなづかいとする。  
31 アラビア数字を使い、原則としてSI単位系(m, kg,  
32 s, Aなど)を用いる。(心拍数、血圧などSI単位系  
33 以外の単位が慣例となっている場合を除く。)

## 35 4. 考察

### 36 4-1. 著者校正について

37 校正は原則として初校のみ著者が行い、初校以降  
38 は編集委員会に一任する。また、校正の段階で論文  
39 内容の大幅な変更や著者の追加などは原則として行  
40 えない。

### 41 4-2. 査読の評価基準について

42 資料を本学会では「実験、試験および調査によっ  
43 て得られた各種データをまとめたもので、研究・設  
44 計・開発・評価等にとって有用な資料として参考にな  
45 るものとする。高い新規性は要求されない。」と位  
46 置づけており、下記の基準で主査・副査は論文の評  
47 価を行う。

48  
49 **【新規性】**：下記が満たされていること。

50 1) 新しい、または今までにないデータ等の資料の提  
51 示

52  
53 **【有用性】**：下記が満たされていること。

54 1) 研究・設計・開発・評価等にとって有用なデータ  
55 等の資料の提示

56  
57 **【客観性】**：下記の全てが満たされていること。

58 1) 記述内容に誤りや矛盾がなく、記述が分かりやす  
59 く、論旨の展開が明確であること。

60 2) 研究目的が分かりやすく明確に記述されている  
61 こと。

62 3) 実験や調査が含まれている論文においては、実験  
63 条件や調査方法が分かりやすく明確に記述されて  
64 おり、信頼性を有すること。

65 4) 結果、結論が知見として明確に示されていること。  
66 5) 関連する文献等を適切に引用し、従来研究との関  
67 連が明確であること。

## 69 5. おわりに

70 このテンプレートでは、段組の左欄に行数を表示  
71 する「行番号の表示」設定をしてある。査読コメン  
72 トで使用するため、表示しておくこと（設定方法は  
73 p.4参照）。なお、採択論文が学会誌へ掲載される際  
74 には、印刷所にて組版を行うため、本テンプレート  
75 の頁数と掲載時の頁数が異なる場合がある。

### 78 利益相反

79 利益相反関係はここに明記すること。本誌では、  
80 利益相反を有すること自体はまったく問題のないこ  
81 とであり、その情報を開示して読者に判断をゆだね  
82 るという立場をとっている。詳細は投稿規程を参照  
83 のこと。

84 利益相反がない場合は記載する必要はない。また、  
85 著者のいずれかが所属する企業・団体において業務  
86 として実施した研究については所属表記にて明確で

- 1 あるので、利益相反として申告する必要はない。
- 2
- 3 <利益相反がある場合の例示>
- 4 例1) 本研究は〇〇〇（企業名等）からの資金提供を
- 5 受けた。
- 6 例2) 本研究は〇〇〇（企業名等）からの受託研究に
- 7 よってなされた。
- 8 例3) 本研究は〇〇〇（企業名等）との共同研究によ
- 9 ってなされた。
- 10 例4) 〇〇〇の実験にあたっては、〇〇〇（企業名等）
- 11 から測定装置の提供を受けた。
- 12
- 13 <参考：査読のブラインド方式について>
- 14 人間工学誌の査読では、長らくダブルブラインドの
- 15 査読方式（著者には主査・副査名を知らせないとと
- 16 もに副査にも当該論文の著者名を知らせない状態で
- 17 査読を行う方式）を採用してきたが、今日の学術動
- 18 向に鑑みシングルブラインドの査読方式（著者名を
- 19 主査・副査に開示する方式）で運営することとなっ
- 20 た。著者情報を本文に明示した形で論文原稿を作成
- 21 のこと。
- 22
- 23 **謝 辞**
- 24 謝辞はここに書く。
- 25
- 26 **参考文献**
- 27 本文中には、引用個所の右肩に文献の番号を記載
- 28 し、本文末尾に出現順にまとめて記載する。書誌情
- 29 報は誤りのないように記載すること。形式は以下の
- 30 例示のとおりとする。
- 31
- 32 <論文・雑誌の場合>
- 33 1) 大須賀美恵子, 青木和夫, 他: 座談会—ネットで
- 34 語る人間工学の来し方行く先—, 人間工学, 50(1),
- 35 1-10, 2014
- 36 2) Dul J, Bruder R, et al: A strategy for human
- 37 factors/ergonomics: developing the discipline and
- 38 profession, Ergonomics, 55(4), 377-395, 2012, doi:
- 39 10.1080/00140139.2012.741716.
- 40 3) VanDieen JH, Oude Vrielink HH: The use of the
- 41 relation between relative force and endurance time,
- 42 Ergonomics, 37(2), 231-243, 1994
- 43 4) Sabatini AM: Quaternion-based extended Kalman
- 44 filter for determining orientation by inertial and
- 45 magnetic sensing, IEEE transactions on Biomedical
- 46 Engineering, 53(7), 1346-1356, 2006
- 47
- 48 \*巻・号は略記に。学会誌名は略記ではなく正式
- 49 名称を記載すること。雑誌名の各単語の最初は大
- 50 文字にすること。ただし transaction については小
- 51 文字。
- 52 \*英文誌の場合、著者は Family name を記載、First
- 53 name はイニシャルのみ。3名以上の場合は2名
- 54 まで記載し、et al 表記にすること。First name と
- 55 middle name の略記の間はスペースを空けない。
- 56 \*doi コードが提供されている場合は付記するこ
- 57 とを推奨（必須ではない）
- 58
- 59 <Proceedings・講演集の場合>
- 60 5) 青木和夫：日本人間工学会の歴史と現状，人間
- 61 工学，50(suppl), 8-9, 2014
- 62 6) Ebara T, Yoshitake R, et al: Impact of Ergonomics
- 63 good practices database as public relations tools,
- 64 Proceedings of 17<sup>th</sup> World congress on Ergonomics,
- 65 EP0100:1-6 on CD-ROM, Beijing, China, 2009
- 66
- 67 \*CD-ROM などの電子媒体の場合、ページ番号は
- 68 任意
- 69
- 70 <書籍の場合>
- 71 7) 日本人間工学会：ユニバーサルデザイン実践ガ
- 72 イドライン，15-18，共立出版，東京，2003
- 73
- 74 <書籍（分担執筆）の場合>
- 75 8) 齊藤進：21 世紀の人間工学，大島正光監修，人
- 76 間工学の百科事典，44-46，丸善，東京，2005
- 77
- 78 <オンライン上の電子資料の場合>
- 79 9) 日本人間工学会テレワークガイド委員会：2010
- 80 年版ノートパソコン利用の人間工学ガイドライ
- 81 ン，Retrieved October 19, 2012, available from
- 82 <http://www.ergonomics.jp/product/guideline.html>
- 83
- 84 <オンライン上のコンテンツの場合>
- 85 10) 日本人間工学会：人間工学とは—人間工学の定
- 86 義，Retrieved January 10, 2014, available from
- 87 <http://www.ergonomics.jp/outline.html>
- 88
- 89 <ISO/JIS などの規格文書の場合>
- 90 11) ISO 9241-210:2010 Ergonomics of human-system
- 91 interaction -- Part 210: Human-centred design for
- 92 interactive systems, Geneva, 2010

ジレイアウト]タブ内の[行番号]にて[ページごとに振り直し(R)]設定をチェックすれば段落版行が表示される。解除(非表示)するにはチェックを外せば良い。下図参照。

### — (以下は採択決定後、提出) —

- ・論文末尾に筆頭著者(筆頭著者が連絡著者でない場合は筆頭著者および連絡著者)の著者情報を記載する。その他の連名者の著者情報の記載は任意とする。
- ・連絡著者の著者情報には連絡先(e-mail アドレス)を必ず記載する。
- ・写真の掲載は任意である
- ・掲載料は投稿規程の別表に記載されている。著者情報部分もページ数にカウントされる。

## 著者情報

顔写真(任意) 30mm×40mm	<b>人間工学花子(にんげんこうがくはなこ)</b>  19〇〇年人間工学大学人間工学学部卒。博士(工学)。〇〇株式会社の勤務を経て、20〇〇年より人間工学大学人間工学学部助教。専門領域: ヒューマンインタフェース設計, HCD ほか、日本人間工学会会員ほか。  連絡先: 〇〇〇@ergonomics.jp
----------------------	--

顔写真(任意) 30mm×40mm	<b>赤坂太郎(あかさかたろう)</b>  プロフィールを記載します(100字以内)。経歴(学歴・職歴)および専門領域および所属学会などを記載。
----------------------	--

### 【段組設定の方法 Microsoft WORD2013 の場合】

段組設定を表示させたい文字列を選択後、[ペー

